

新課程における授業のあり方 地理B編

広島大学大学院国際協力研究科 教授 中山修一

夢と感動とスキル

この7年来、筆者は開発途上国の開発問題を主要なテーマとする大学院の教育開発講座で仕事をしている。それだけにアジア、アフリカ地域の教育問題に関わることが多い。途上国の教育現場を訪れて、強く印象づけられるのは、多くの学校で出会う教師に、夢と感動とスキルといった教育の三原則が欠けていることである。

翻って、日本の場合はどうであろうか。筆者の中学、高校時代の恩師を振り返って見ると、先の三原則がいたるところに発揮されていた。夢は恩師の語り口に、感動は語りと板書に、そしてスキルは、板書の多色チョークによる地図や地図帳の指示の仕方に光を放っていた。

今、われわれの教室の中はどうだろうか。美しいポスター、スライド、OHP、ビデオ、パワーポイントなど視聴覚教材や機器を多用する教室の中で、生徒は教師からどんな夢と感動とスキルを学び取っているのだろうか。

21世紀型の日本人と新課程

日本の教育は、明治初期、戦後、そして、今、平成の大改革という史上第3の大波の中にある。社会の構造改革がなかなか進まない中、実は教育界も「豊かさの中で学びを忘れ、教えるも衰える日本。閉そくをどう破るか。」（「教育を問う」日経新聞 2001.6.23）といわれるほど、状況は深刻である。同レポートは、「成熟社会の豊かさは、学びを通じた自己実現の中にある。前提になるのは、切磋琢磨し、多様な選択ができる教育システムだ。」という。新課程への期待は大きい。

新課程の目標

中央教育審議会編（1996）は、21世紀に向けた教育改革の原則を、「21世紀を展望したわが国の教育の在り方について」に示した。これからの子どもたちに必要とされるのは、「いかに社会が変化しようと、自分で課題をみつけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、より良い方向で

問題を解決する資質や能力であり、また、自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心など、豊かな人間性」であるとした。しかし、日本人は、長い歴史の中で集団としての目標を、国家社会から与えられて生きる受動的的文化の中にどっぷりと漬かり切ってきた歴史をもつ。だから、今、生きる目標を自分で探せといわれても、それは簡単なことではない。

とはいえ文部省編（1999）にいう通り、新課程は、中教審答申を踏まえ生きる力をつけるための「学び方を学ぶ」を基本目標に貫いている。今、日本の教育に課せられた課題は、江戸時代を含めれば数世紀にもわたるこの国の受動的的文化の中の生き方を、能動的生き方に代え、21世紀型市民の育成を図ろうとする一大挑戦に他ならない。

さて、新課程は、どのような21世紀型市民の育成をめざしているのだろうか。この小論は地理Bに焦点を絞って考えるので、まず、その目標を確認しておきたい。地理Bは、「現代世界の地理的事象を系統地理的、地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方

を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。」とされる。

「国際社会に主体的に生きる日本人」に、具体的には、どんな資質が求められているのだろうか。多様な議論のエッセンスをまとめると、思考力、倫理性を踏まえた豊かな感性、広い視野、表現力、問題解決能力などがあげられよう。これらの一般目標を地理Bに当てはめると、思考力とは、地理的見方考え方のことであり、倫理性を踏まえた豊かな感性とは、人権を尊重した多文化理解の感性である。また、広い視野とは、多様な価値観を受容できる広い視野であり、表現力とは、自らの意思や見解を他人や他文化に発信できる能力のことである。そして、問題解決能力とは、地球的課題への解決策をまとめることができる分析と評価能力のことといえる。こうした目標を、地理Bの授業の中で達成していく工夫が、新課程の地理には強く期待されている。

新課程地理Bのめざす授業の構成と目標

新課程地理Bは、①地理的技能、②地理的考察、

③地域性、④地域構成、などの文言が増え、「方法を学ぶ」ことをこれまで以上に求めていると中村寛（1999）は指摘した。それは確かであり、新課程が能動的生き方を踏まえた21世紀型市民育成という現代の教育課題に答えることを強く意識した結果であるといえる。

図1は、地理Bが、どのような構成により21世紀型の市民育成に当たろうとしているのかを理解するために、学習指導要領の目標および内容、それに想定しうる教科書の構成を関連づけて整理したものである。大事なことは、年間の

図1 学習指導要領の組み立てと想定しうる教科書の構成

下位目標1：現代世界の系統地理的考察（第1部 自然と生活）

ア. 自然環境（1章 自然環境と生活）

イ. 資源、産業（2章 資源と産業）

ウ. 都市、村落（3章 生活と文化）

エ. 生活文化（3章 生活と文化）

下位目標2：現代世界の地誌的考察（第2部 世界の諸地域）

ア. 市町村規模の地域（1章 市町村規模の地域の調査）（2章 地域を見る方法）

イ. 国家規模の地域（3章 国家規模の地域の調査）

ウ. 州・大陸規模の地域（4章 州・大陸規模の地域の調査）

（5章 国や地域の調査のまとめ）

下位目標3：現代世界の諸課題の地理的考察（第3部 グローバル化する現代世界）

（第4部 地球的な課題）

ア. 地図化してとらえる現代世界の諸課題（3部1章 21世紀の世界の諸課題のとらえ方）

（3部5章 地図でとらえる現代世界）

イ. 地域区分してとらえる現代世界の諸課題（3部3章 地域区分でとらえる現代世界）

ウ. 国家間の結びつきの現状と課題（3部2章 グローバルに結びつく現代世界）

エ. 近隣諸国研究（3部4章 近隣諸国の研究）

オ. 環境、エネルギー問題の地域性（4部3章 環境・エネルギー問題）

カ. 人口、食料問題の地域性（4部1章 人口・食料問題）

キ. 居住、都市問題の地域性（4部2章 都市・居住問題）

ク. 民族、領土問題の地域性（4部4章 民族・領土問題）

上位目標：国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う

ア、イ、ウ は、学習指導要領の中項目。（ ）内は、想定しうる教科書の部・章立て。

授業計画を立てるに当たり、教科書が学習指導要領の原理をどう反映して編集されたものかを十分に理解しておくことである。

さて、図1に見るとおり、新課程地理Bがめざす上位目標は、「国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う」とされる。この目標達成のために、下位目標4項目が設けられている。

下位目標の第1は、「現代世界の系統地理的考察」の仕方を学ぶことであるが、その枠組みは、系統地理学の主要な分類によっている。つまり、自然地理学（ア．自然環境）、経済地理学（イ．資源、産業）、集落地理学（ウ．都市、村落）、並びに文化地理学（エ．生活文化）の基礎的方法を学べるよう配列されている。

下位目標の第2は、「現代世界の地誌的考察」の方法を学ぶことである。そのため、異なる規模による地誌的考察の方法の学習を提示する。つまり、ア．市町村規模の地域、イ．国家規模の地域、ウ．州・大陸規模の地域、という設定である。ここでは、地域の規模により考察のための指標が異なることの理解を求めている。それぞれの規模における代表的な指標を例示すれば、市町村規模の地誌的考察には、土地利用の学習がもっとも効果的である。農業、工業、市街地といった土地利用の違いの考察は、市町村の地域性を明らかにする基本的、伝統的地理学習法である。国家規模の地域の場合には、産業、とりわけ資源や農業、工業活動の偏在現象の学習が効果的だろう。さらに州・大陸規模の地域の場合には、気候区や国家の領域の在り方の学習などが効果的であろう。これら三つの異なる地域の規模による地域性を見方は、市民が世界システムを理解するための基本的地域単位なのである。

第3の下位目標として設けられた「現代世界の諸課題の地理的考察」では、地理的認識の大原則である地図化および地域区分による方法をまず学

ぶ。次いで、国家間の結びつきを、さらに個別事例学習として、地図化と地域区分と国家間の結びつきを認識する原理の応用例として、近隣諸国について学ぶことを求めている。そこでは、近隣諸国との結びつきを歴史的に学ぶ工夫が求められる。

また、「地理的な見方や考え方を培う」ことを求める。その学び方を学ぶ対象として、典型的な地球的課題を4グループに整理している。これら地球的課題の分析と評価能力の育成は、新課程地理Bがめざす「国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う」ための応用力を期待する部分である。したがって、ここで重要な留意点は、地球的課題について、普遍的原理の学び方を学ぶと同時に、これらの地球的課題に日本がどう関わっており、この国の市民として、どのように関わっていくべきかという点にまで、議論を深めることが求められていることを忘れてはならない。

おわりに

新課程地理Bは、地理的技能の育成を強調しているかに見える。しかし、それは知識、技能、態度形成の三位一体の同時的発展原則の変更を意図するものではない。技能は、知識と態度形成を効果的に結びつける重要な役割を担っている。だからこそ新課程は、生きる力を育てるために「学び方を学ぶ」という大きな目標の中で、伝統的に知識重視に片寄りがちであった地理教育の弱点を軌道修正する狙いがあることに注目したい。

参考文献

中央教育審議会編（1996）：21世紀を展望したわが国の教育の在り方について『現代教育科学』臨時増刊号No.479, p.91.

文部省編（1999）：『高等学校学習指導要領解説・地理歴史編』実教出版。

中村寛（1999）：春の委員会に参加して『地理教育研究会報』No.346, pp.1-2.